

令和5年7月14日(金)

## 7月14日は県民の日

鹿児島県が誕生した明治4年の廃藩置県布告日が7月14日であったことにちなんで、明治150年を記念し、平成30年12月に毎年7月14日を「県民の日」とすることが制定されました。

今日は、本県出身で京セラやJALの再生などを手掛けた、稲盛和夫さんの著書「成功」と「失敗」の法則の一部を紹介します。

私は「試練」を経験することが人間を大きく成長させてくれるチャンスになると考えています。実際、偉大なことを成し遂げた人で、試練に遭ったことがないという人はいません。

明治維新の功労者である西郷隆盛もそうです。西郷は、幼小の頃は「ウド」というあだ名の、目立たない子どもだったといえます。ところが、後には勝海舟をはじめとする幕末の偉人たちを感嘆させたほどの人格者となり、明治維新の偉業を成し遂げています。

この西郷は、人生において様々な試練に遭遇しています。例えば若いときは、親友であった僧月照とともに、鹿児島島の錦江湾に身を投げ、自分だけ蘇生するという経験をしています。親友を逝かせてしまった西郷の心痛はいかばかりであったでしょう。

また、遠島を二回も経験しています。特に二度目は、島津久光の逆鱗に触れ、鹿児島から遠く離れた沖永良部島に流され、風雨が吹き込む狭い牢獄に閉じ込められるという悲惨な目に遭っています。

しかし、そのような逆境の中でも、西郷は東洋古典の耽読などを通じて、自分を高める努力を続けていました。苦難に耐え、むしろ苦労を糧として、人格を磨く努力をひたむきに続けたのです。

その後、許されて島を出た西郷は、高潔な人格と識見を備えた人物として、人々の信望を集め、やがて明治維新の立役者となります。

この西郷の人生は、「試練」に遭遇したときに、どのように対処するかが、いかに人生で大切なのかということをよく表しています。

苦難に直面したときに、打ち負かされて夢をあきらめてしまったり、いい加減なところで妥協をしてしまったりするのか、それとも西郷のように、苦労を苦労と思わず、ひたむきに努力を重ねることができるのか、ここに人間的に成長できるかどうか、その分岐点があるのです。

喜入中学校の生徒の皆さんも、県民の日を踏まえ、試練を乗り越えた稲盛さんや西郷さんのように、生き抜いてみませんか。